

夏休みが終わりました。大きな事故事件の報告がなかったことに安堵しています。

昨日9月1日は、1923年関東大震災発生日として語り継がれる防災の日、東日本震災や能登地震、注意報発令となった懸念される南海トラフや、近隣でも昭和61年に筑西市の小貝川決壊や平成27年の常総鬼怒川決壊、毎年毎月起こる大雨による被害が出て、昨日までも台風10号の常識を覆す進路や遠隔大雨など、こんな時に危機管理を意識しましょう。災害はこんなの初めてって起こりますよ。

オーストラリア語学研修参加の皆さん、大きなハプニングでした。出発するはずの飛行機が日本にない！、航空会社を変更してもらい、全日程をキャンセルすることなく実施できたことは本当によかった。JTBをはじめ多くの人が何としても本校生徒をオーストラリアに出発させようと努力していたんですよ。不意の事態の時こそ、冷静に、情報を収集分析し、その状況における最善を考え導き出し、協力して行動すべきだと実感しました。これ、まさに、探究学習の真髄ですね。

この夏甲子園に出場した栃木県立石橋高校は、ホームページを見てみたら伝統や進路実績において本校ととても良く似た学校でした。栃木大会では強豪校に、なかでも決勝は9—8と競り勝ち、甲子園へとコマを進めました。相当な激戦だったと思いますが、この「競り勝つ」に重要な要素があると思っています。報道によれば、練習は平日2時間、「文武不岐」の意気込みのもと、練習後に勉強時間を確保しており、引退後は猛烈に勉強して進路希望実現に向かうそうです。

私は長くサッカーに携わってすごい高校生をたくさん見てきた話をさせてください。毎年、お正月に全国大会が開かれる日テレ系の高校サッカー選手権。あの選手たち、サッカーを通して進路を決定してあって、正月にサッカーだけしているかというところ、確かにあれだけのチームですからそういう選手は多いですが、正月の全国大会後、数週間でやってくる「共通テスト」を受け、一般試験で国立大学へ進路を決定している選手も多いんですよ。スタンドの応援している選手たちは、前半終了のホイッスルとともに参考書を広げる姿が映し出されることがあります。帰りの電車の中では勉強してる。

こういったことができる生徒の特徴は何だと思いますか。だいたい重い言葉がならんできませんか。「本気」「根気」「覚悟」「必死」…。たしかにそうやって眼をギンギンに血走らせて。血気盛んにやろうとしがちですが…、そういった気持ちを引き出すトリガーがあると考えています。

これまでの経験からそれぞれの時間を「目一杯楽しんでいる」こと。部活動を楽しんでるといえるのはわかりますよね。ただ、中途半端な楽しみ方だと後を引いちゃいますが、これが目一杯だと「フー楽しかった！」って区切りがつくと言っていました。

学習は目一杯楽しめていますか、それともつまらなくて苦痛ですか。こここそポイントですね。楽しむための方法は基本に忠実です。自分から「？」をもつだけだと思います。授業中に学習を目一杯楽しむ「練習」を積むことで自然と文字への向き合い

方が変わると思います。テキストを漫画かといわんばかりに見れたら最高ですね。

時間は誰にも平等に与えられています。でも使い方は人それぞれ。お金と一緒に生きる使い方と無駄な使い方があるそうです。そして貯められるという発想で「時貯」と呼ぶ方もいらっしゃるようです。目一杯楽しんだものは身について、その時間を貯められるとしたら、一番無駄になっていそうな時間はどこにある？無駄になっているのは「授業中」じゃないかなと思っています。日常の中で毎日 55 分×6 時間の 5 時間 30 分あるわけです。この時間は睡眠時間に近い数字だし、家での活動時間や食事の時間より長い。そのうち、どれくらいを貯めて、無駄にしていますか。

やりたいことがあるならなおさら、授業中の？&！で「目一杯楽しむことからの本気」と「時貯」を実践して、負けゲームを引き分けに、引き分けゲームを勝ちゲームにひっくり返せるよう競り勝とう、皆さんの能力や可能性を開花させましょう。